

# お知らせ

◆一緒に講座を作りませんか？

## アルザにいがた企画委員 募集中！

男女共同参画に関する講座を一緒に企画・運営してくれる市民の皆さんを募集しています。

～応募要件～

市内に在住・通学・通勤している18歳以上（高校生不可）で、アルザにいがた主催講座に参加したことがある方（上映会は除きます）

～活動内容～

- 企画委員会（全体会議）年2～3回
- 担当講座の企画会議、当日の運営 年10回程度
- ⇒ 講座内容、講師の検討、講座の準備、司会、まとめなど



企画委員募集  
詳細はこちらから

◆男女共同参画社会の推進を目指すイベントです

## アルザフォーラム 2023 実行委員 募集中！

「アルザフォーラム」は、市民中心の実行委員会の主催により、男女共同参画を広く啓発するアルザのイベントです。企画や運営に携わってくださる方を募集します。

～応募要件～

市内に在住・通学・通勤している18歳以上（高校生不可）でジェンダーについて関心のある方

～活動内容～

- 実行委員会への出席 年15回程度
- 基調講演、分科会などの企画・運営
- テーマ（キャッチコピー）決め
- PR活動（広報活動）など



アルザフォーラム実行委員募集  
詳細はこちらから

### 企画委員・実行委員 共通事項

- 任期 1年間 ※企画委員の再任の上限は10年とします。
- 保育 あり（対象：生後6カ月から就学前まで）
- 謝礼 1回2,500円（約2時間）、上限30,000円
- 選考 個別に面談を実施し、申込の内容・経験などを総合的に判断し決定します。
- 応募締切 令和5年2月24日（金）必着

## メール配信「アルザ情報」

講座情報等を月1回のペースで配信しています！ぜひご登録ください。



alza@city.niigata.lg.jp

件名を「アルザ情報希望」としメールを送ってください♪本文は不要です。受信後、確認の返信メールを送付します。土日及び祝休日を除き、3日後までに届かない場合は、お手数ですがアルザにいがたまでご連絡ください。

## 情報図書室より

# 男性育休に関する本をご紹介します



### 男性育休の教科書 男性育休義務化の基礎知識

日経 xwoman / 編  
日経 BP (発行), 日経 BP マーケティング (発売)

2022年から変わった男性育休についてわかりやすく解説し、企業の実践例や取り組みなどが紹介されています。B5判と大きく、表やイラストが入っていて読みやすく、チェックシートやワークシートは社内研修や家族会議にも活用できそうです。



### 育休夫婦の幸せシフト制育児

芳田 みかん / 著 オーバーラップ

夫婦揃って育休を取り、編み出したのは「シフト制育児」。男性育休を活用した新たな育児スタイルは、決して順調に進んだ訳ではなく…。そんな試行錯誤の日々を綴ったコミックエッセイです。ぜひ夫婦で読んでほしい一冊です。



### 男性の育休 家族・企業・経済はこう変わる

小室 淑恵・天野 妙 / 著 PHP 研究所

深刻な人口減少の突破口として、また企業を活性化させる施策としても期待される男性育休。なぜ取得率が低いのか。男性育休の基本的な知識や社会的背景を解説し、今後の課題を考察しており、男性育休の理解が深まります。



### 男性育休の困難 取得を阻む「職場の雰囲気」

齋藤 早苗 / 著 青弓社

育休を取得する男性はからかわれたり、仕事を盾に休むことを批判されることがあります。なぜ男性育休は職場からの逸脱と見なされるのか。様々なインタビュー調査を基に職場の雰囲気を明らかにし、いまの働き方を問い直す一冊です。



アルザにいがた情報図書室は、  
新潟市立図書館のカードで貸出ができます。

開室時間：月曜～金曜 10:00～17:30

休室：土日及び祝休日、第1水曜、第4月曜、年末年始、蔵書点検期間

男女平等をともにすすめる情報紙



もっと広がれ

# パパの育休



2023年2月 vol.53

## アルザにいがた

発行/新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」  
新潟市中央区東万代町 9-1 万代市民会館内  
電話：025-246-7713 8:30～17:30 土日及び祝休日を除く  
URL: <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/>  
E-mail: [alza@city.niigata.lg.jp](mailto:alza@city.niigata.lg.jp)



「アルザ」は、「志気を高める」、「高揚」という意味のスペイン語の「alza(アルサ)」が語源。開館5周年の公募で決定、センターが男女共同参画について意識を高める場であってほしいという願いが込められています。



アルザにいがた Twitter  
講座情報や新着図書情報、職員が日常で感じたジェンダーに関することをつぶやいています。コメントやいいね、お待ちしております♪



情報紙のご意見・ご感想をEメールでお寄せください。



# もっと広がれ！パパの育休

制度を利用して  
パパも育休を！



## ◆2022年に育児休業制度が変わりました

男性の育児休業取得を進めるため、2022年4月から順次、改正育児・介護休業法が施行されています。子どもが生まれる従業員に育児休業（以下、「育休」）制度の説明及び取得の意向を確認することが、全ての企業に義務付けられ、10月からは「産後パパ育休（出生時育児休業）」の創設、育休の分割取得が可能になるなど、柔軟な取組ができるようになりました。

### 改正されたポイント

2022年4月～ **全企業対象**

- 育休取得しやすい雇用環境の整備
- 育休制度の個別周知・意向確認の措置の義務化
- 有期雇用労働者の育児・介護休業取得要件の緩和



2022年10月～ **全企業対象**

- 産後パパ育休（出生時育児休業）の創設  
育休とは別に子どもが生まれてから8週間以内に4週間までの休暇を2回に分けて取得できる
- 育児休業の分割取得  
原則、子どもが1歳になるまでに2回に分けて取得できる

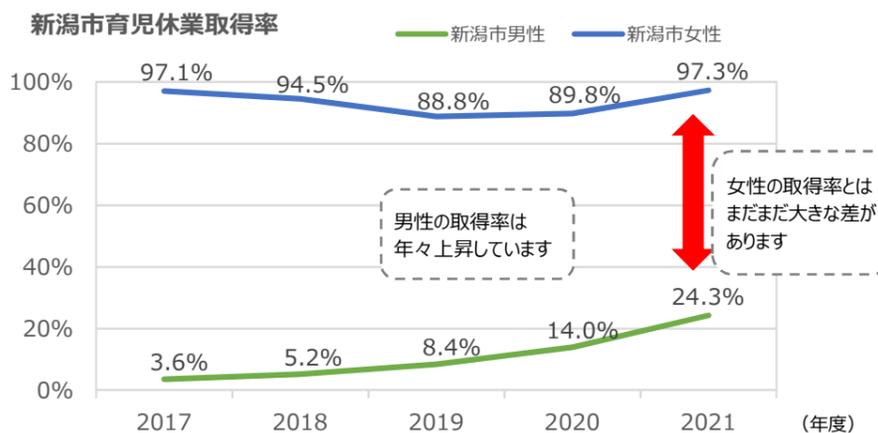
2023年4月～

- 育児休業取得状況の公表義務化（従業員1,000人超の企業）

## ◆男性育休の取得状況は

国では2025年までに男性の育休取得率30%の目標を掲げていますが、2021年の全国の男性の育休取得率は13.97%と年々上昇してはいるものの、目標には及んでいない状況です。

今回の育児・介護休業法の改正など様々な取組が行われ、取得しやすい環境づくりが進んでいます。新潟市では、男性の育休取得率は増加傾向にあり、女性の取得率と大きな差がありますが、2021年は24.3%となり、2割を超えました。



出典：新潟市賃金労働時間等実態調査

## ◆育休を取得した男性の声

育休を取得した男性の声から、実際に取得して感じた様々な気づきや、新たな課題がみえてきています。



※新潟市「先輩パパの育休体験記」及びアルザにいがた講座参加者の声などより

## ◆もっと広がれ！パパの育休

アルザにいがたでは、子育て中の夫婦を対象に家事や育児の分担について考える講座や子育て中の男性を対象に家族のコミュニケーションやパパ同士の交流ができる講座などを開催しています。育休の取得は、わずかな間に大きく成長する子どもとの時間、そして夫婦でその楽しさや大変さを共有できるかけがえのない体験となることと思います。ぜひ育休の取得を考えてみてください。



様々なパパ支援事業を行っている団体をご紹介します。

### ◆ファザーリング・ジャパンにいがた（NPO法人ファザーリング・ジャパン新潟支部）

子育てや働き方、意識改革など次世代のための社会変革を通してよいパパではなく、笑っているパパを増やし、パパであることを楽しむ活動を新潟県全域で行っています。新潟のパパ同士のつながりや多様な人が集まる貴重な「サードプレイスの場づくり」を目指して、取り組んでいます。

■2022年は夫婦や親子を対象にした事業などを行いました。

- ・子育て中のパパママへ夫婦関係をよりアップデートし、リフレッシュしてもらうために「夫婦ふれあい整体教室」を開催
- ・新潟市北区子育て応援事業「北区パパスクール」の運営を担い、親子と一緒に参加できる工作や運動などのイベントを実施 など

※詳しい活動は「ファザーリング・ジャパンにいがた」のHPをご覧ください。  
<https://www.fjiiigata.jp>



# 活躍する女性をご紹介します②1

今回は、開業助産師で、母子への家庭訪問や公民館の家庭教育学級の講師などを行っている齊藤里佳さんをご紹介します。

## 【PROFILE】



新潟市内公立病院に11年間勤務後、結婚を機に退職。その後、開業助産師として活動を開始する。市町村委託事業の新生児訪問だけでなく、依頼があれば自宅に伺い、沐浴や授乳指導、その他希望に合わせたケアを提供している。妊娠中の心身の調整、リラックスを深めるためマタニティヨーガの研究を行い2017年大学院修了。近年は性教育にも力を入れている。新潟市在住、夫と娘（高校生）の3人暮らし。

### ■助産師を目指したきっかけを教えてください。

子どもの頃から保育士か看護師になりたいと思っていました。当時、保育士は少子化のため職が減るかもしれないという情報もあり、次第に看護師を目指すようになりました。看護学生時代に、人生の出発点である出産に立ち会うことのできる助産師という仕事は、何より尊い仕事であると思い、産むいのちと生まれるいのちをサポートしたいと助産師を目指しました。

### ■助産師として、どんな活動をされていますか。

現在は、新生児訪問、市内大型スーパー育児相談、公民館での妊婦さん向けの講座や保護者向けの性教育講座の講師、小・中・高校での生と性の講演等も行っています。市内の助産院では、機会があれば産後ケアにも携わっています。最近では、コロナ禍ということもあり、出産後に親の協力が得られないご家族が多くなり、母親同士が安心して繋がれる機会も減っていると思います。そのような中でも嬉しいことは、父親の育休取得率が以前より増えていることです。家族が安心してゆっくと過ごせる産後の環境が確保されるように、子どもや親に優しい社会制度が充実することを願っています。

### ■夫婦で子育てする中で大切なことは何だと思えますか。

子育ては、特に子どもが小さいうちは時間的にも体力的にもかなりハードだと思います。そのような状況の中で、夫婦関係を良好に保つことは、重要なポイントになると思います。今までの経験から、たとえ家事育児の役割が夫婦どちらかに偏っていたとしても、言葉を通してお互いの気持ちを伝え合っている夫婦は、小さな不安も一緒に解決している感じがします。同志として1つの大きなプロジェクトと一緒に挑んでいるようなイメージでしょうか。まずは、自分に優しくすること（いつも頑張っている自分を褒める）、ジェンダーバイアスに捉われ苦しくなっていないかを意識してみる（男女で「こうあるべき」と思い込みはないか）。そして、自分の感じた気持ちをパートナーに伝え、お互いの気持ちを確認し合うこと（言葉でなければ伝わらない思いを伝えること）は大切だと思います。夫婦は、それぞれ違うからこそ惹かれ合うと思うのですが、時としてその違いにイライラすることも多いと思います。毎日が荒ただしいからこそお互いに向き合う時間を作り、2人だけで過ごす僅かな時間も大切に出来たらいいですね。